

PRESS RELEASE

躍動する魂のきらめき 日本の表現主義

Expressionist Movements in Japan

きしだりゅうせい よるずてつごろう かんばらたい とうごうせいじ むらやまかい た とみもとけんきち おんちこうしろう
岸田劉生、萬鉄五郎、神原泰、東郷青児、村山槐多、富本憲吉、恩地孝四郎、
くろだせいき
黒田清輝.....絵画、版画、写真、工芸、建築、デザインなど、大正期の
熱き芸術、約 350 点！！

関連記事掲載・番組での紹介のお願い

拝啓

新緑の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、兵庫県立美術館の活動にご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、当館では、平成 21 年 6 月 23 日(火)から 8 月 16 日(日)まで「躍動する魂のきらめき－日本の表現主義」展を開催いたします。

つきましては、貴媒体にて本展をご紹介いただきますようお願い申し上げます。また、広報用写真や読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、別紙の F A X 用紙にてご請求ください。

その他、ご不明な点や資料等のご請求がございましたら、お問い合わせください。

敬具

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 - 1 - 1

兵庫県立美術館 営業・広報グループ

TEL 078-262-0905

FAX 078-262-0903

躍動する魂のきらめき 日本の表現主義

写真使用お申込書

読者・視聴者プレゼント用招待券お申込書

営業・広報グループ 行

F A X (0 7 8) 2 6 2 - 0 9 0 3

希望写真（作品名）	
貴社名	
媒体名	
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	()
F A X	()
メールアドレス	@
掲載・放送予定日	
写真到着日希望	
読者・視聴者プレゼント用招待券（最大 10 組 20 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）	組 名分希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または録画テープを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、下記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材、撮影はお断りいたします。

兵庫県立美術館 営業・広報グループ
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1
電話 (0 7 8) 2 6 2 - 0 9 0 5

躍動する魂のきらめき 日本の表現主義

Expressionist Movements in Japan

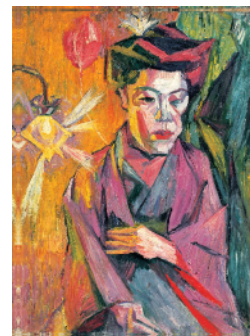


神原泰《スクリアピンの「エクスタシーの詩」に題す》1922年 東京国立近代美術館蔵

6月23日(火) - 8月16日(日)

開館時間 午前10時-午後6時(金・土曜日は夜間開館、午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日(ただし、7月20日(月・祝)は開館し、7月21日(火)休館)



萬鉄五郎《風船をもつ女》1912-13年 岩手県立美術館蔵

岸田劉生、萬鉄五郎、神原泰、東郷青児、村山槐多、富本憲吉、恩地孝四郎、
黒田清輝.....絵画、版画、写真、工芸、建築、デザインなど、大正期の熱
き芸術、約350点！！

表現主義とは、20世紀の初め頃、ドイツをはじめヨーロッパ各地で起こった美術運動です。形や色の表現に内面や精神を強く表わそうとするこの運動は、日本にも伝わりました。日本でも明治末から大正期に、内面の感情や生命感を表わした個性的で力強い芸術表現が各分野で生まれ、この動向は日本独自の展開を示しました。

この展覧会は、1910年代から20年代、大正期を中心に起こったこの熱き芸術表現を日本の表現主義と位置づけ、洋画、日本画、版画、彫刻、工芸、建築、デザイン、写真、舞台美術など、ジャンルを越えて紹介する初めての試みです。個性や内面が強く噴出したこの時代の芸術を、約140作家の約350点の作品や資料によってご覧いただきます。(会期中展示替があります)

(参考) 本展巡回先

2009年4月18日~6月15日	栃木県立美術館
8月22日~10月12日	名古屋市美術館
10月20日~11月29日	岩手県立美術館
12月8日~2010年1月24日	松戸市立博物館

主催：兵庫県立美術館/読売新聞大阪本社/美術館連絡協議会

後援：兵庫県/兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会

協賛：ライオン/清水建設/大日本印刷

観覧料 一般1,200(1,000)円、大・高生900(700)円、中・小生500(300)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金。

・兵庫県内に在住・在学の中・小生はココロンカードの提示により無料

- ・障害のある方とその介護の方1名、兵庫県内在住の65歳以上の方は当日料金の半額
- ・コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要（本展とあわせて観覧される場合は割引あり）

【章構成と主な出品作家】

序章 予兆	黒田清輝、藤島武二、後藤慶二、ほか
表現 生命主義	岸田劉生、村山槐多、甲斐庄楠音、秦テルヲ、恩地孝四郎、田中恭吉、富本憲吉、濱田庄司、ほか
表現 影響と呼応	萬鉄五郎、東郷青児、神原泰、村山知義、岡本神草、長谷川潔、森谷延雄、淵上白陽、山田守、川喜田煉七郎、斎藤佳三、ほか
表現 生活	藤井達吉、北原千鹿、河井寛次郎、高村豊周、ほか

【会期中の催し】

記念連続講演会「大正期・躍動する芸術 日本の表現主義をさぐる」

第1回 7月12日(日)「日本における表現主義とは？」

森仁史氏（金沢美術工芸大学大学院教授）

第2回 7月19日(日)「建築にとって表現とは何だったのか」

梅宮弘光氏（神戸大学大学院准教授）

第3回 7月26日(日)「表現としての絵画」

速水豊（兵庫県立美術館学芸員）

第4回 8月9日(日)「写真の表現主義」

竹葉丈氏（名古屋市美術館学芸員）

*いずれも午後2時より 当館ミュージアムホールにて 聴講無料（ただし入場には観覧券の半券が必要です） 定員250名（先着順）

学芸員による解説会

7月11日(土)、7月25日(土)、8月8日(土) 午後4時より約45分 当館レクチャールームにて 聴講無料 定員100名（先着順）

ミュージアム・ボランティアによる見どころ案内

会期中の毎日曜日、午前11時より約15分

当館レクチャールームにて 聴講無料

こどものイベント「みんなでエクスペッション！」

その1：7月11日(土)午後1時半より約2時間

その2：7月12日(日)午前10時半より約2時間

要予約・有料

受付開始日：6月26日(金)午前10時より

お問い合わせは(078)262-0908(こどものイベント係)まで

おやこ解説会「100年前の日本にタイムスリップ！」

8月1日(土)午後1時半より約30分

当館レクチャールームにて 聴講無料 定員100名(先着順)

【お問合せ先】

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

*取材・写真提供に関すること：営業広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

*展覧会の内容に関すること：企画担当学芸員 速水豊、飯尾由貴子、遊免寛子

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

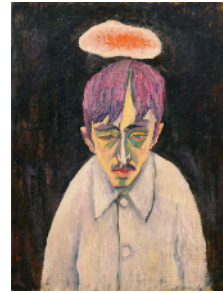
【主な出品作品】

洋画

明治末、ファン・ゴッホ、セザンヌといった画家の作品が、日本の若い芸術家を強く感化しました。「**芸術の目標は美ではなく表現だ**」という考えが彼らを捉え、これまでにない強いエネルギーと精神性を持った絵画が生まれます。^{きしだりゆうせい}岸田劉生や^{よるずてつごろう}萬鉄五郎など、それぞれ作風は異なりますが、自我や内面的なものの表出において共通しています。大正期には^{とうごうせいじ}東郷青児、^{かんばらたい}神原泰ら、前衛的な作風に挑んだ洋画家も多く現れました。



岸田劉生《南瓜を持てる女》1914年
プリヂストン美術館蔵



萬鉄五郎《雲のある自画像》1912-3年
岩手県立美術館蔵

日本画

大正期、伝統的な日本画に反旗をひるがえし、自身の感性や内面によって自由に主題や表現を選びとろうとする動きが、若い日本画家たちの間で起こります。1918年、こうした画家が結成したのが、**国画創作協会**でした。^{かいのしょうただあと}甲斐庄楠音、^{おかもとしんぞう}岡本神草もこのグループの展覧会に出品し、新しい日本画の創造を追求しました。この時代には、西洋の前衛芸術の影響から先鋭的な表現活動へと向かった^{たまむらほくと}玉村方久斗や^{あたいけちくは}尾竹竹坡らもいました。



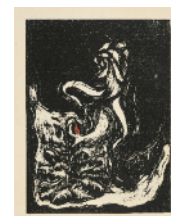
岡本神草《アダムとイヴ》大正期
兵庫県立美術館蔵



玉村方久斗《風景四題 - 曙》1926年頃
京都国立近代美術館蔵

版画

大正の初め、多くの若い美術家が版画に向かったのは、版画が自らの生を何よりも強く表現できる媒体と考えられたからではないでしょうか。1914年、東京で開催された**デア・シュトゥルム**木版画展覧会は、ドイツ表現主義の版画を多数公開し、決定的な影響をおよぼします。^{はせがわきよし}長谷川潔は『仮面』誌上で生命感あふれる人物像を表現し、版画誌『月映』では、^{たなかきよきち}田中恭吉や^{おんちこうしろう}恩地孝四郎がきわめて個性的な作品を発表しました。



田中恭吉《去勢者と緋芥子》1914年
須坂版画美術館蔵



恩地孝四郎《抒情 あかるい時》1915年
須坂版画美術館蔵

写真

写真表現も 1920 年代に大きな転回を見せます。自然風景を描写するのではなく、画面を光と影の構成として表現することが目指されました。写真は「光画」と呼ばれ、リズムやハーモニーによる「視覚的音楽」と捉えられました。やがて、写真本来の客観性から離れた写真家たちは、歪曲像や抽象形態による**主観的表現**によって、自己の内面を作品に投影するようになります。



西亀久二《二人の男》1926年
名古屋市美術館蔵（7月22日より展示）

建築

建築における近代の刷新を特徴づけるのは、1920年代初めに結成された**分離派建築会**の活動でした。**堀口捨己**、**滝沢真弓**、**山田守**ら、このグループに影響を与えたのは、ドイツのユーгент・シュティルや表現主義の建築でした。現実よりも理想的な精神性を重んじる傾向は、音楽家・**山田耕柝**の理想を**川喜田煉七郎**が具現化してみせた音楽堂構想《**霊楽堂**》にも見ることができます。



滝沢真弓《山の家（模型）》1921年設計
東京大学藤森研究室蔵

工芸・デザイン

伝統工芸からは離れた姿勢で、独創的な作品を作ろうとする動きが大正期に顕著となり、**富本憲吉**や**濱田庄司**による生命感あふれる作例が生まれました。1920年代、**高村豊周**を中心とする**无型**というグループは、日本人の新しい生活にふさわしい表現を生命の力強さの表現に求めました。留学中、ドイツ表現主義の室内装飾に感化を受けた**森谷延雄**は、帰国後、斬新なインテリアの作例を発表します。



濱田庄司《ガレナ釉彫絵蓋壺》1922-23年
財団法人参考館蔵



山脇洋二《煙草入れ》1927年
高松市美術館蔵

舞踊・演劇・映画

1914年、ドイツから帰国した音楽家・**山田耕柝**は、美術家・**斎藤佳三**、舞踊家・**石井漢**とともに音楽と舞踊を融合させた「**舞踊詩**」を創作します。20年代、斎藤と石井は「**表現派舞踊**」を発表、また、**小山内薫**らが立ち上げた**築地小劇場**では**表現主義演劇**「**海戦**」が旗揚げ公演となり、観衆に衝撃を与えました。ドイツ表現主義映画などの影響から、**衣笠貞之介**監督「**狂った一頁**」など前衛的な映画も生まれています。



舞台写真《「海戦」築地小劇場第1回公演》1924年
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵
（7月20日まで展示）

このプレスリリース内の図版は、媒体掲載可能で著作権処理など必要ありません。掲載されるときには、作者名、作品名、制作年、所蔵先を必ず記載してください。